

714異常環境等を起因物とする死傷災害100事例まで（2018年）

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2018	1	17 ～ 18	離陸してすぐに、ベルトサインが消灯した後、機内後方の台所で、飲み物サービスの準備を始めたところ、急な揺れに遭遇した。片手でサービスカートを抑えながら体を保持しようとしたところ、機内後方台所に設置されているカウンターに胸とみぞおち部分を強打した。その後、痛みと吐き気があった。	23	3	40103	1000人以上
2	2018	1	6 ～ 7	除雪ドーザーにて除雪作業中、下水道マンホールとアスファルトの凹凸部にブレードが引っ掛かり、前進後進レバーボックスに衝撃でぶつかり左膝を殴打した。	66	2	170201	10～29人
3	2018	1	8 ～ 9	原付きバイクで出勤、早朝より倉庫にて荷卸作業を行い、その後、原付きバイクで当社へ移動中、道路を直進していたとき、道路に面した駐車場から右折してきた軽自動車と接触し転倒した。	43	2	80209	1～9人
4	2018	2	8 ～ 9	乗務中、上昇と降下時に耳閉感があった。	31	12	40103	500～999人
5	2018	5	8 ～ 9	台船に穴が開いていることで甲板上のマンホールのナットを緩めて蓋を開けて中の状況を確認したところ、台船の中は少し水が溜まった状態で蓋を開けて10分くらい中に入ったときに意識を失った。	48	12	11301	30～49人
6	2018	7	17 ～	支店のドライバーとともに、2階建てのアパートにて引っ越しの作業を行っていたところ、手足がつり、全身がつり、呼吸がしづら	28	11	170101	100～

			18	なくなりました。					299 人
7	2018	7	14 ～ 15	作業員が躯体解体で発生した鉄骨材を細断するため、ガス溶断していた際、熱中症症状を発症し、その場で転倒して、腰を鉄骨材に打ち動けなくなった。	44	11	30201		10～ 29人
8	2018	7	17 ～ 18	タンカー船のプロペラを清掃するため、潜水にてスクレッパーを使用し貝殻等の付着物を除去後、両耳に耳閉感と耳鳴りの症状が出た。	24	12	11501		1～9 人
9	2018	7	14 ～ 15	農場内にて、被災者は分娩豚の移動を他の従業員と行った後、豚舎内の清掃・給餌等を行っていたが、休憩時間になっても被災者が来ないので呼びに行ったところ、入口付近で倒れていた。	32	11	70101		—
10	2018	10	13 ～ 14	工業港に停泊中の台船内で、船内に溜まった水を排出する作業中に酸欠を起こし、気絶して倒れた。その際、うつ伏せに倒れて水面に顔をつけた状態となり、そのまま溺死した。	31	12	11209		10～ 29人
11	2018	10	11 ～ 12	工業港に停泊中の台船内で、船内に溜まった水を排出する作業中に酸欠を起こし、気絶して倒れた。その際、うつ伏せに倒れて水面に顔をつけた状態となり、そのまま溺死した。	30	12	11209		10～ 29人
12	2018	10	22 ～ 23	航空運送のため航空機に乗務中、降下する際に両耳が詰まり、中耳炎となった。	27	12	40103		500 ～ 999 人
13	2018	11	12 ～ 13	航空機に乗務中、機内後方シートに着席している際に左耳が詰まり、しばらくして痛みが出て、ほぼ聞こえなくなった。着陸後も左耳の痛みと詰まりが継続し、航空性中耳炎と航空性副鼻腔炎を併発した。	31	12	40103		500 ～ 999 人
			8	着陸姿勢に入り、機内最後部にあるギャレーの安全確認を実施後、ギャレーから乗務員席に移動しようとしたとき、体が浮き上					1000

14	2018	12	～ 9	がるような縦揺れが発生した。しゃがむと同時に横揺れが発生し、ギャレー台下のカート収納スペースに、体の一部が入り込む状態でぶつかった際、左こめかみ、顎関節・首・肩に挫傷を負った。	64	3	40103	人以上
----	------	----	--------	--	----	---	-------	-----

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害100事例まで（2018年）](#)に戻る。